

完了報告書（平成 23 年度）

提出者 吉野 裕介

提出年月日 平成 24 年 3 月 27 日

**【プロジェクト名】**

和文 「東アジア諸国におけるハイエクを中心とした新自由主義の受容と展開」

英文 The acceptance and diffusion of Neo-liberalism in East Asian countries

**【メンバー構成】**

研究代表者 吉野 裕介

幹事

メンバー

**【ねらいと目的】**（600 字程度）

**ねらい** 東アジア諸国, 特に中国, 台湾, 韓国, 日本において, 新自由主義が受容された過程を比較検討し, 東アジアにおける公共圏の思想的基盤を解明し, 本プログラムの課題—東アジアにおける「親密圏と公共圏の再構築」に貢献する。

**目的** 新自由主義思想が東アジア諸国へ伝播した過程を, ハイエク思想の受容と展開から論じる。特に 1970 年代から 80 年代後半にかけて, 中国, 台湾, 韓国, 日本などの東アジア諸国に流入したハイエク思想がその後どのように伝播したのか。ハイエクと東アジア諸国の学者との往復書簡をもとに解明する。新自由主義は, 主に市場の役割を拡大しようとする経済思想である。その流入は, 政府の役割および公共圏／公共性の範囲を規定することでもある。ここで新自由主義の普及について検討することで, 東アジアにおける公共圏の役割を再考する基礎とする。

**【活動の記録】**

研究会・ワークショップの場合は、開催年月日、報告者と報告題等

調査の場合は、調査年月日、調査者、調査地、調査目的等

その他の活動も含めて、研究期間中の活動について簡潔に記してください。

平成 24 年 1 月 6 日から 9 日まで、台湾中央研究院にて現地調査を行い、ハイエクの著作の中国語への翻訳事情を調査するため、雑誌「自由中国」の収集、閲覧にあたった。

平成 23 年 7 月 1 日から 9 月 7 日まで、米国スタンフォード大学フーバー研究所にて、ハイエクの著作のアジアへの展開過程を調査するため、ハイエクの手稿の調査にあたった。

収集した資料をもとに考察を深め、最終的に英語論文を作成した。この論文は、校閲を経て、現在英語圏の学術雑誌へと投稿予定である。

**【成果の概要】** (800 字程度)

- 1) スタンフォード大学で現地調査を行い、それをもとに東アジア諸国の学者たちがハイエクとどのように交流を持ったのか明らかにした。ここでの成果により、中国語や日本語への翻訳を引き受けた学者の分野から新自由主義思想の流入の実際を把握した。
- 2) 同様の研究アプローチ、すなわち欧米思想の東アジア諸国への流入に関心を持ち、なおかつ「親密圏と公共圏」について関心を有する学者を招聘する予定であったが、当方が出向いたことにより、次年度以降に持ち越されることになった。
- 3) 研究代表者（申請者）による論文を作成し、英語論文として海外ジャーナルに投稿する。国内外の研究者と意見交換することをきっかけに、同様の関心を持った研究者と知己を得て、新たな研究ネットワークの構築を目指す。

こうした調査の結果、主に台湾でのハイエク思想の翻訳は、哲学者によってなされたことがわかった。これにより、戦後の台湾の思想空間における問題、「自由とは何か」「自由経済とは何か」という問題が明らかになった。

これは、経済学者や政治学者など、社会科学者によって訳された日本での事情とは異なる背景である。日本では、ハイエクを受容することは、資本主義もしくは自由主義経済の新たな社会像を探求することであった。

**成果のとりまとめ**

ここで作成した英語論文は、スタンフォード大学ロバート・リーソン教授が編纂しマクミラン社から刊行中のハイエクに関する研究書シリーズ *Hayekian Tradition* に著される予定である。同シリーズの *Hayekian Tradition, VOLUME SIX: THEMATIC ANALYSES*, Edited by Robert Leeson, Palgrave Macmillan, 2011 (forthcoming) に掲載予定であり、今後さらに同教授との共同研究をさらに進める。

(785 字)

**【通信欄】**

(研究代表者記入)

プロジェクト	■次世代    □次世代ユニット    □男女共同参画に資する調査研究				
経費	予算額	350	(千円)	実績額	435 (千円)